

→佐藤愛子の甲子園生活と阪神間モダニズム

2019. 5. 12 (日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第 545 回 参加報告

シナを愛し妻と息子達を捨てた洽六は、以降彼らの不品行と絶え間ない金の無心に苦しめられ続ける。洽六の情念に引きずられ二番目の妻となったシナは二人の女の子を産み、舞台への道を断念させられた。その次女が佐藤愛子である。洽六の愛情を一身にうけ、気が強くわがままで甘やかされ、愛子はこわいものなしの子供だったようだ。先妻の子、サトウハチローは成功したようだが、他の息子たちは、洽六に金の無心と心配をかけつづけた。そして、ついに四男は生活苦から 19 才で女と心中してしまう。物事に対して客観性が欠如していて感情を爆発させる父親と、そんな夫をまるで他人事のように見て、そうすることで自分を守って黙る妻。特異な環境で育つ子供たちもまた、自分をもて余し、暴れるしかなかったのだろう。そんな中で愛子とその姉だけが妙に明るく醒めていて救いであった。



松山大学温山記念会館前



武庫川学院甲子園会館

佐藤愛子さんは大阪帝塚山で生まれ、満 2 才で甲子園に転居され小学生で再び同町内の大きな屋敷に引っ越されている。いちご畑も広がっていたという武庫川沿いには当時を偲ぶ数々の建築物が残されていた。

愛媛県松山出身で一代で財を成した新田長次郎氏は、故郷に学校を創立し教育に尽力された。現在は松山大学のセミナー室として利用されている「松山大学温山記念会館」は外観のみの見学ではあったが、スタンドグラスや凝った内装そして防空壕まで完備されているようだ。

武庫川学院甲子園会館も外観のみの見学ではあったが、緑釉瓦など日本の伝統芸が随所にとり入れられ、装麗な洋風建築だ。どちらも平日は見学可能日があるようだ。

これらの洋館は戦後、アメリカ軍の海軍病院、将校宿舎に活用されて現在まで残っている。佐藤愛子さんが暮していた家は回りの植えこみと石垣のみが残されていて現在は某企業の社員寮が建っていた。

その後、北郷公園、鳴尾義民碑を見学し、春風公民館にて昼食。食後、横井さんのレクチュアを受け、津門神社へ。鳥居と拝殿・本殿が東向きであり、お百度石ならぬ萬度石の存在を初めて知る。隣接する昌林寺との間に「首洗池」ともいう明星池があり、多田源氏の美丈丸(美女丸)の身代わりとなり首を斬られた幸寿丸に纏わる伝説も残っているようだ。最後は JR 西宮駅近くで JR 組と阪急組に分れての解散となった。



<報告：田原由美子>

昌林寺 源頼光公供養塔